

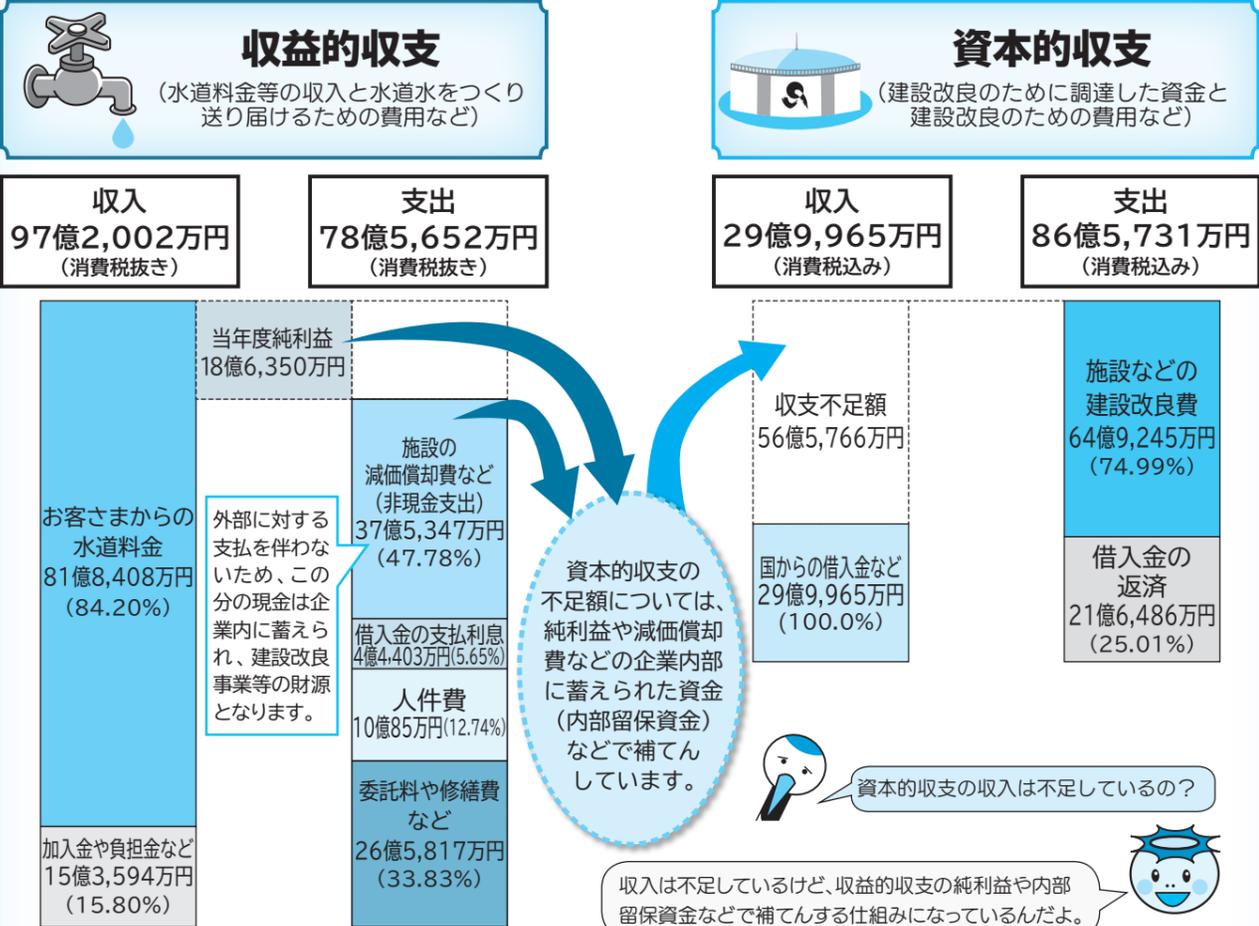
令和2年度水道事業会計決算のあらまし

水道局では、「独立採算の原則」のもと、皆さまからいただいた水道料金を主な財源として、効率的な事業運営に努めているところです。令和2年度の決算が市議会で認定されましたので、その内容についてお知らせします。



お客さまからいただいた水道料金はこのように使いました。

◆ 水道事業は収益的収支と資本的収支の2本だての会計になっています！



● 純利益は18億6,350万円

令和2年度の純利益は、元年度の純利益約4億7,708万円から、約13億8,642万円増の約18億6,350万円となりました。

※元年度の純利益は、令和元年東日本台風等の影響により、例年より少なくなっています。

お問い合わせ 経営戦略課 財務係 TEL 22-9313



シリーズ その5 「いわき市の水道の歴史」

内郷町の水道

いわきの水道は、令和3(2021)年11月1日に「水道通水100周年」を迎え、シリーズで「いわき市の水道の歴史」を掲載しています。

第5回は、常磐地方炭鉱発祥の地である「内郷町の水道」についてです。

内郷地区は、明治以降、炭鉱の発展に伴い地下採掘が拡大すると、地下水の坑道浸透により、炭鉱集落の井戸水が次第に枯渇し、その結果、飲料水を井戸水に依存していた地域住民は、飲料水不足という大きな問題に直面することになりました。

炭鉱採掘の中心であった磐城炭礦(株)は、明治37年(1904年)、水源を好間川に求め、鉱業用水として水道を設置するとともに、地域住民の飲料水の確保のため無料給水を開始しました。しかし、この水道は、好間川の表流水をそのまま引用し、石灰塩素を注入しただけの鉱業用水としての性格が強いものでした。

また、昭和14年(1939年)頃、腸チフスや大腸菌保菌者が集団発生したことから、ろ過施設を備えた上水道の整備が急務となりました。

これに対し、戦後になって常磐炭礦(株)は、GHQ*の指令により国の補助を受けて水道の改善に動き出しました。その内容は、常磐炭礦専用水道からの上水分水による上水道新設計画でした。(計画給水人口3万人、計画1日最大給水量5,400立方メートル)。

この計画は、昭和25年(1950年)に事業開始の認可を受け、炭鉱専用水道の施設である峰根浄水場が完成し、昭和26年(1951年)12月から公営水道として給水を開始しました。その後、同計画はいわき市に引き継がれましたが、炭鉱専用水道への依存度が高い特異なものでした。

※ GHQ(連合国軍日本進駐総司令部)



磐城炭礦町田坑と宮町(大正初期)

出典：いわき市史

お問い合わせ 総務課 広報情報係

TEL 22-9314

放射性物質の検査結果

水質管理センターで週3回モニタリング*を実施
令和3年8月～令和3年10月の結果は
いずれも不検出

水道局では、放射性物質のほかにも約200項目(水質基準項目51項目、独自検査項目約150項目など)の検査を実施しており、すべての項目で基準を満たし、安全であることを確認しています。

最新の検査結果など、詳しくは水道局ホームページでご確認ください。



* 法田第一ポンプ場(法田第二ポンプ場と同じ敷地内)、旅人浄水場(水源が深井戸)、上遠野浄水場(泉浄水場と同じ水源)の3か所は、週1回の検査としています。

お問い合わせ 浄水課 水質管理センター TEL 22-2419

《令和3年8月1日～令和3年10月31日》 (単位：ベクレル/kg)

採水場所	検査頻度	放射性セシウム		
		放射性ヨウ素 ヨウ素131	放射性セシウム セシウム134	放射性セシウム セシウム137
① 平浄水場	3回/週	不検出 (ND)	不検出 (ND)	不検出 (ND)
② 上野原浄水場				
③ 泉浄水場				
④ 山玉浄水場				
⑤ 法田第二ポンプ場				
⑥ 川前浄水場(川前簡易水道)	1回/週	不検出 (ND)	不検出 (ND)	不検出 (ND)
⑦ 入遠野浄水場(遠野簡易水道)				
⑧ 鷹ノ巣浄水場(")				
⑨ 法田第一ポンプ場				
⑩ 旅人浄水場(田人簡易水道)				
⑪ 上遠野浄水場(遠野簡易水道)				

検査結果が検出下限値を下回った場合、「不検出(ND)」と表記しています。検出下限値は、測定機器や測定時間等によっても違ってきますが、現在の検査状況では1ベクレル/kgです。なお、厚生労働省が定める管理目標値は「10ベクレル/kg以下」となっています。